

# 「文化」って？

今坂柳二

文化団体連合会のことを遠聞するたび、文化って  
いうけど「文化」っていったい何なのだろうって思っ  
たりする。

辞書では「世の中が開けて生活が便利になること」  
であり、それは「衣食住をはじめ技術・学問・芸術・  
道徳・宗教の成果」とある。(広辞苑) つまりは世の中  
の物も事も心も、みんな「文化」なんだよって言っ  
ているのだ。

文化財保護法は一九五〇年に制定された。我が家  
の裏に広がる台地は縄文時代の遺跡群で、その辺り  
には土器片はもとより石斧や石鏃がぞくぞく出てく  
るが、捨てる人もなかった。それも、いまや貴重な文  
化財だ。春祭・秋祭に欠かせないお囃子、庶民の楽  
しみ、俳句について昔の人は「ナマケ発句にバカ囃  
子」と言った。失礼といえど可成り失礼な言葉だけ  
れど、俳句に関わる私や仲間、また地域で人気のお  
囃子の方たちにして「当然」と言えど、そんな  
部分もあるなあ」と、半分くらいは納得済みだ。

昔ばなしに対する見方も凡そ似たようなもので、  
文化とか文芸に遙か遠いところで密かに生きている  
状態だった。その証拠に、いまや昔ばなしの採  
集は殆んど不可能な状態になっている。それは伝承  
即ち親から子への語りつぎが途切れたということ。  
昔ばなしは藁屋根の下、日の当たる縁側に舞台は

限られていた。あるいは囲炉裏火の明かりで、つっ  
かけた鍋の中へとちやなげをおっ放り込み、一ん  
ち中、鍬を振り下ろし続けた牛蒡堀りの疲れをいや  
しながら話すのが昔ばなしなのであった。

大事なことを一つだけ加えておきたい。桑の木根  
つこの火加減をしながら話した婆ちゃんのことばは、  
みんな昔言葉だったということ。

いま各地の囃子連は文化財の指定を受け、俳句は  
衛星放送の電波に乗って茶の間に届く。そして文団  
連においても、昔ばなしを伝え、広めるプロジェク  
トをスタートさせようという話が伝わってきた。い  
よいよ狭山でも昔ばなしが舞台に上って、ライトを  
向けられる日が近づいてきたようだ。

文化Ⅱ「社会を構成する人々によって習得・共有・伝  
達された行動様式ないし生活様式の総体」(大辞林)



## 編集後記

市民文化祭が終り、公民館の賑わいもまえにもどった。文団連会員も市民会館などで発表。私も民謡とハーモニカで出演しましたが、準備した椅子が空いていた。各サークルは空きがない程なのに、協会・連盟等には加入の意志がなく、文団連の加入にも繋がらないのは残念です。特に伝承芸能の分野は集客が少なく、小・中学校の学習に期待したい。さて、前号は新体制による「文化のいぶき」と改称した初号でしたが、読みやすくなったとの声もあり、意を強くしています。レイアウトの鈴木克身さん、今後もよろしくお願いします。  
(高沢正夫)